



横浜市立一本松小学校

6月号

令和4年5月31日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

# 学校だより

## 「根張り」を大切に

副校長 杉山 嘉子

初夏の風が心地よい季節となりました。

先週までの2週間は、どの学年も体力テストウィークとなりました。一本松共育倶楽部さんのご協力のもと、ソフトボール投げや反復横跳びなどのテストを実施し、日々成長している子どもたちの体力の状況を測定しました。

50メートル走では、クラスの仲間たちに「走り方のコツ」を教えている姿、20メートルを往復することで持久力をはかるシャトルランでは、自分の限界にチャレンジしようと走り続ける姿など、様々な場面で諦めず挑戦する子どもたちの姿がありました。随所で見せる子どもたちの粘りは、成長していく上で大切な「根張り」の一つにつながっているのではないのでしょうか。

小学校生活は、人生のうちのほんの一部。長いようで短く、心も体も大きく成長するこの6年間はあっという間に過ぎていきます。人生においての小学校の6年間は、植物の一生に置き換えて考えてみると、植物の一生でいう「根張り(根を張る)」、大切な時期なのではないのでしょうか。「根を張る」という言葉には、「深く広がって、動かしがたいものになる」という意味があります。子どもたちは、夢や目標を達成することを目指して、日々の学習に取り組んでいます。「夢や目標を達成すること」と「花が咲く、実を結ぶこと」は、共にゴールであり、次へのスタートでもあります。目標を成し遂げるために必要な考え方もったり、知識や技能を身に付けたりするなど、一つ一つの努力や経験を積み重ねることが「根を張る」ことにつながっていくように思います。植物が根を張り成長することは、自然の流れで当たり前のことですが、人間には想像できないくらい長い時間をかけて身に付けた植物にとって生きぬくための大切なプロセスです。この「根張り」のプロセスのように、普段は見えないけれど、見えないものにも意識を向け心の目で見ようとすることで、自分自身の成長やよさ、できるようになった自分に出会うことができるはずです。一本松の子どもたちにも、美しい花を咲かせるために自身の成長を支える小さな努力を日々積み重ねることで、深く、広く根を伸ばして行ってほしいと願っています。

2000年シドニーオリンピック、日本女子陸上界初の金メダルに輝いたQちゃんこと、高橋尚子さんの座右の銘は、「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。」だそうです。この言葉は、元三洋電機副社長の後藤清一氏の言葉ですが、多くの人々の共感をよび、そして心の支えとなっています。最初から大きな花を咲かせ、咲き続けられるものではありません。だからこそ、花が咲かない時期にしっかりと根を伸ばしていくことが大切なのでしょう。

一方で、深く根を張り、のち美しい花を咲かせるためには、「土」や「風」、様々な自然条件が大きく関わります。土は植物を支え、栄養を与えます。風は時に厳しく、時にあたたかな空気を送ります。

一本松の子どもたちにとって「土」となり「風」となって、足元をしっかりと支えるのは地域・保護者のみなさま、一本松小の教職員です。育てたい子ども像を共有しながら、予測のつかない未来でも生き抜くための力を身に付けられるよう、大切な「根張り」の6年間は、共に支えていけたらと思います。

今月も、一本松小学校の教育活動へのご理解、ご協力よろしくお願いたします。